

No.	(1) 交付対象事業の名称	(2) 実績額 (単位：千円)	(3) 本事業における重要業績評価指標 (KPI) ※目標年月 (R4.3)			(4) 本事業終了結果			(5) 実績値を踏まえた事業の今後について		
			指標	指標値	単位	実績値	事業効果	事業担当課による評価	今後の方針	今後の方針の理由	
①	「南紀熊野ジオパーク」を拠点とした地域しごと創生-広域連携 (2団体)	43	1	南紀熊野ジオパークセンター来館者数 (平成30年 0千人)	107	千人	51	地方創生に効果があった	新型コロナウイルス感染症の影響で約3ヶ月の外出自粛要請が出されGWや夏季の人流が減少したが、修学旅行でのセンター利用を働きかけた結果、県内を中心に116校4,399人の利用があり、来館者数を前年度並に維持することができた。 (参考) 令和元年度：35千人 令和2年度：50千人	事業の継続	今後も、センター来館者の増加を図るため、一般の方へのSNS等での発信や、学校や教育機関等への働きかけを行っていく。
			2	ガイド派遣依頼に基づくガイド案内者数 (平成30年 853人)	1,353	人	1,273	地方創生に効果があった	コロナ禍で外出が抑制される中で、教育機関での南紀熊野ジオパークの認知度が高まり、修学旅行でのガイド利用が増加したことにより、目標値をほぼ達成できた。 (参考) 令和元年度：694人 令和2年度：1,065人	事業の継続	ガイド案内者増につなげるため、旅行会社や教育機関などへのPRを、引き続き、行っていく。
			3	串本町内周遊バスの利用者数 (平成30年 0人)	6,500	人	1,374	地方創生に効果があった	コロナ禍で約3ヶ月の外出自粛要請が出されGWや夏季の人流が減少し目標値を下回っているが、利用者数は着実に増加している。 (参考) 令和元年度：868人 令和2年度：1,032人	事業の継続	継続して利用者増を図るため、県、串本町、地元観光協会や事業者が連携して利用を促進していく。
			4	「南紀熊野ジオパーク」エリアに宿泊する外国人宿泊者数 (平成30年 201千人)	294	千人	2	地方創生に対する効果不明	コロナ禍で海外との往来が制限され、外国人宿泊者数は激減した。 (参考) 令和元年度：166千人 令和2年度：17千人	事業の継続	引き続き、海外向けの情報発信に注力し、今後、往来が再開する国・地域から段階的に海外プロモーションを展開する。
②	最南端から最先端へ！民間ロケット発射場を核とした地方創生プロジェクト	5,430	1	公式見学場 (2箇所) 来場者数	3000	人	0	地方創生に対する効果不明	ロケット打ち上げが延期 (令和5年2月末予定) されたことに伴い、打ち上げ応援会は未開催となったが、誘客と渋滞対策の両立を目的としたマニュアルを策定するとともに、機運醸成を目的とした宇宙シンポジウムin串本を満員御礼で開催することが出来た。	事業の継続	ロケット打ち上げを契機とした誘客等の対策を引き続き推進するとともに、宇宙関連教育を実施し、宇宙をはじめ科学への興味・関心を持つ児童生徒の裾野を広げ、高度な科学人材の育成につなげる。
			2	観光入込客数	865	万人	549	地方創生に効果があった	コロナ禍による二度の外出自粛要請がなされた上に、ロケット打ち上げも延期されたため、目標は未達。ロケット見学と周辺の観光施設を組み合わせたツアーの造成に向けた準備等を進めた。		
			3	県内児童生徒に対する宇宙関連教育実施数	1100	人	272	地方創生に効果があった	宇宙シンポジウムin串本への児童生徒の参加や、小中学生向けワークショップの実施はできたものの、ロケット打ち上げが延期されたため、発射見学を実施出来なかった。		